

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 30 日現在

機関番号：34531

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24660050

研究課題名(和文)光トポグラフィによる評価を活用した高齢者アニマルセラピープログラムの構築

研究課題名(英文)The animal therapy program for elderly people

研究代表者

奥津 文子 (Ayako, Okutsu)

関西看護医療大学・看護学部・教授

研究者番号：10314270

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：羊・ヤギ等を用いたアニマルセラピーの効果を確認しようとしたが、羊・山羊に対し訓練が十分できず、安全性の確保が不十分であったため、断念。犬および馬によるアニマルセラピーの効果を検討した。

犬との接触によりリラクゼーション効果のみならず、共に活動することで「活気」が向上し、「緊張・不安」が低下することが確認できた。さらに馬の騎乗によっては、高いリラクゼーション効果が認められた。さらに体幹部の深部筋力の増強効果が考えられたが、確認には至らなかった。

研究成果の概要(英文)：We tried the animal therapy using a sheep, the goat. However, we were not able to ensure the security of the participant. In the animal therapy using the dog, we were able to confirm the relaxed state of the participant. Furthermore, "Energy" "Will" of the participant was improved. In the animal therapy of the horse, a relaxed effect by the riding on horseback was found.

研究分野：成人看護学

キーワード：アニマルセラピー 高齢者 リラクゼーション

1. 研究開始当初の背景

研究者らは、地域高齢者に対する心理・社会的刺激を意図して、滋賀県畜産技術振興センターと協働でアニマルセラピーに取り組んできた。特に振興センター「ふれあい広場」における家畜とのふれあいの場の提供、障害者施設・高齢者施設への「出張ミニふれあい広場」、高齢者施設への山羊・羊・ウサギの「長期貸し出し」等の活動は、参加者から「元気が出た」「楽しかった」と高い評価を得てきた。

しかし、客観的評価を行うには至っていない。研究動向：日本におけるアニマルセラピーの研究は、ほとんどが活動報告や総説であり、研究的に取り組み結果を出しているものは数少ない(2008 水谷)(2007 河村)。エビデンスも明らかにされていない。

2. 研究の目的

2000 年から開始された我が国の健康施策である「健康日本 21」の最終評価がまとめられ、その重点課題として「高齢者の健康」「心の健康づくり」が示された。わが国にとって、高齢者の心身の健康をどのように確保するかは、重要な課題である。これらの現状を踏まえ、農村地帯にすむ高齢者を対象に、犬・馬等の身近な動物との接触による脳賦活状態の変化を評価し、それをもとに効果的なアニマルセラピープログラムを構築することを目的に本研究を展開する。

地域高齢者の心身の活性化は、わが国にとって緊急の課題であり、さまざまな方略が検討されている。

しかし心理・社会面への取り組みは客観的評価が難しく、経験的・主観的評価に留まっている。本研究の成果は高齢者の心理・社会面の活性化に寄与し、高齢者のQOL 向上、さらには医療費・介護費の抑制につながる。

また、心理療法による脳賦活状態を客観的に評価する方法の確立にも寄与する。

3. 研究の方法

1) 高齢者を対象としたアニマルセラピーの実態調査
滋賀県下の病院・高齢者施設の聞き取り調査を実施

2) 犬を用いたアニマルセラピープログラムの効果検証

当初は光トポグラフィーによる脳血流による評価を考えていたが、光トポグラフィのレンタル料が1週間に70万円と高額であったことから、断念。心理尺度 POMS と唾液アミラーゼ、脳波で評価することとした。

- ・健康な大学生 10 名に対し実施
POMS、唾液アミラーゼの測定
波流測定
犬とのアロマセラピープログラムの実施(脳波測定継続)
波測定
POMS、唾液アミラーゼの測定
- ・脳波の前中後比較
- ・POMS、唾液アミラーゼの前後比較

3) 馬を用いたアニマルセラピープログラムの効果検証

当初は山羊・羊を用いたアニマルセラピープログラムを実施する予定であったが、山羊・羊の訓練が十分でなく完全にコントロールすることが困難で、被験者の安全性を確保できないことから、断念せざるを得ないと判断した。ホースセラピーに計画を変更することとした。

- ・健康な大学生 5 名に対しホースセラピーを3日間実施
POMS、唾液アミラーゼの測定
脳波測定
騎乗プログラムの実施
(脳波測定継続)
脳波測定
POMS、唾液アミラーゼの測定
- ・脳波の全中後比較
- ・POMS、唾液アミラーゼの前後比較

4. 研究成果

2012 年度、高齢者を対象としたアニマルセラピーの実態を把握することを目的に、滋賀県下の実態調査を実施した。

その結果、アニマルセラピーは感染予防の観点から病院の一般病棟では全く導入されていないことが分かった。しかし、3施設の緩和ケア病棟ではドッグセラピーが行われており、入院患者からも高い評価を得ていた。

高齢者施設においても、犬、猫、ウサギといった小動物との触れ合いの機会を設けている施設が多く見られた。滋賀県畜産技術振興センターから山羊・羊の長期貸し出しを受けている施設も見られた。

しかし、アニマルセラピーの専門家により構築されたプログラムを実施している施設は皆無であり、動物と「接触する」ことだけが行われているにすぎなかった。効果の検証についても、全くなされていなかった。

2013 年度、高齢者向けドッグセラピープログラムを構築した。参加者の疲労を考慮し、イントロダクション・エンディングを含め 20 分間のドッグセラピーとし、訓練を受けた犬を用いて、出会い 触れる ゲーム 触れる 別れのプロセスをプログ

ラムした。

その効果を検証するために、健康な大学生 10 名に対し、プログラムを実施し、脳波・POMS・唾液アミラーゼを測定し、プログラム前後での比較およびプログラム中の変化（脳波）を観察した。

その結果、POMS、唾液アミラーゼでは有意な差は見られなかったものの、「触れる」の実施中は、すべての被験者がリラックス状態になっていることが確認できた。

ドッグセラピー実施後の聞き取り調査では、「犬が反応してくれるから、うれしい」「犬とゲームすると、夢中になって、元気が出た」などの言葉が聞かれた。

2014 年度、ホースセラピープログラムを検討したが、騎乗だけでもリラックス効果があるとの乗馬インストラクターの助言から、特にプログラムは構築せず、騎乗 15 分間の変化を観察することとした。

健康な大学生 5 名（乗馬体験のない者）に対し、15 分間の騎乗を 3 日間行い、騎乗中脳波測定を行うと共に、POMS、唾液アミラーゼを測定し前後比較を実施した。

その結果、POMS の下位項目である「活気」が改善し、「緊張・不安」が低下していることが確認できた。また、騎乗回数を重ねるごとに、全員の脳波がリラックス状態を示すことが確認できた。

また、終了後の聞き取り調査では、「最初は怖かったけれど、馬はかわいい」「馬に揺られているリズムが心地いい」「インストラクターがついていてくれないと、不安」等の声が聞かれた。

さらに、騎乗後 5 人すべての被験者が筋肉痛を訴えたことから、騎乗しているだけでも筋肉へのアプローチがなされていることが予測できた。

体幹部の深部筋力の増強は、姿勢保持に必要な不可欠であることから、騎乗による筋肉トレーニングの可能性が示唆された。

さらに、馬・犬・イルカを用いたアニマルセラピーについて、アニマルセラピーの専門家およびアニマルセラピーに興味を持っている地域住民とディスカッションし、正しい知識の普及に努めると共に、地域住民のアニマルセラピーに対するニーズについて広く聞き取り調査をした。地域住民の健康長寿に対するニーズは高く、さまざまな健康関連セラピーに興味関心を持っていることが分かったが、馬・イルカ等の日常的接触が難しい動物を用いるアニマルセラピーは、「やってみたいと思うけれど、どこで体験できるかわからない」「資格を持ったインストラクターが不可欠」「日常生活の中では困難」等、日常的に取り入れることに難しさを感じていることが分かった。

これらの成果を踏まえ、2014 年 8 月 10 日、「第 2 回 日本健康・環境セラピー学会」（淡路夢舞台国際会議場）において、アニマルセラピーの可能性を広く市民に周知するため、ブース展示を行った。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
日本健康・環境セラピー学会ホームページにおいて、アニマルセラピーの可能性についてアップした。
<http://www.jheta.jp/>

6 . 研究組織

(1)研究代表者

奥津文子

(関西看護医療大学看護学部・教授)

研究者番号 : 10314270

(2)研究分担者

荒川千登世

(滋賀県立大学・人間看護学部・准教授)

研究者番号 : 10212614

前川直美

(聖泉大学・看護学部・講師)

研究者番号 : 20352916

森 敏

(滋賀県立大学・人間看護学部・教授)

研究者番号 : 40200365

本田加奈子

(大垣女子短期大学・その他部局・准教授)

研究者番号 : 60381919

糸島陽子

(滋賀県立大学・人間看護学部・教授)

研究者番号 : 70390086

(3)連携研究者

()

研究者番号 :